

月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた 教育史研究を求めて

創刊準備号 2014年12月1日

編集世話人 富岡勝・谷本宗生

発行 『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に
入れた教育史研究を求めて』編集委員会

連絡先 大阪府東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学教職教育部 富岡研究室

e-mail: tomiokamasa@kindai.ac.jp

ニューズレター創刊準備のごあいさつ

富岡 勝 (近畿大学)

このたび、大学史や旧制高等学校研究などと一緒にすることの多かった谷本宗生さんとともに勝手に「編集世話人」に名乗り出て、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』をつくり始めることにしました。

「現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて」と銘打っていますが、広い意味で現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究であれば、高等教育史だけでなく中等教育史や初等

教育史なども含めた幅広いテーマで進められる研究に関する記事を集めて交流したいと考えています。記事の内容は、論考（連載ももちろん OK）をはじめ、史資料の紹介、先行研究の検討、研究上のアイデアなど研究に関するものでしたら何でも結構です。

ただし、このニューズレターは毎月書き続けることで執筆者それぞれが研究を活発に進めながら交流していくことを目指しますので、少なくとも3年間は毎月刊行を継続したいと思います（と宣言してしまいました）。そこで、執筆者になっていただく方も、原則として毎月執筆していただく、ということで少なくとも1年間以上は参加していただきたいと思います。

また、このニューズレターは、国会図書館などにも献本して、ちゃんと執筆の記録を残せるようにしたいと思います。刊行物であるこのニューズレターに書くことで、その人の研究上のオリジナリティが証明されるようになれば、論文として完成途上のアイデアであっても気軽に公表して交流することができるだろうと思います。気軽に書きためていくことで、まとまった論文が生まれやすくなるだろうと思います。

こうしたニューズレターを始めようと考えた理由は何よりも私自身、ニューズレターの記事を書きながら研究を進めるスタイルというのが一番自分にあったスタイルだと感じるようになったた

めです。また、大学史や旧制高等学校研究などで出会った方々をはじめとした皆さんに呼びかけて、一緒にニューズレターを書いてどんどん新しい研究を進めてもらえたらと考えています。

このニューズレターに関するコンセプト（6頁の刊行要項）を見ていただき、もしよろしければ、ぜひ一緒に執筆していただきたいと思っています。ぜひ前向きのご検討をお願いいたします。

研究ニューズレターを一緒に書きませんか？

谷本 宗生（大東文化大学）

引っ込み思案な僕は、近畿大@富岡勝さんの熱心な呼びかけを受けて、今回この研究ニューズレターの編集発行に参加してみようと考えました。毎月執筆することを心掛けることはなかなか忙しいなか大変だと思いますが、自分自身の調査研究の進捗状況を確認するうえでもよいペースメーカーとなるでしょうし、またニューズレターに公表し多くのかたと意見交換することで、ときに独りよがりな狭い考えかたに偏ることも少ないだろうと考えます。

ということで。今回の号では、僕の現在の調査研究プロローグ的なものをなにか簡略に触れたいと思います。本年11月29日、科研費出張で福井県の武生に資料調査に赴きました。越前市立図書館にて、初代帝国大学総長もつとめた渡辺洪基に関して「武生

郷友会誌」の記事を読むことが目的でした。随分以前にも、東京大学在職時に武生で資料調査を行ったことがありました。ただ改めて、出身郷里で渡辺が会の設立運営にも尽力したとされる「武生郷友会誌」の記事を読んでみましたが、今回新たな発見・気付きもありました。私自身の興味関心、問題意識・視角が変化しているためなのかなとも感じます。その1つは、維新政府から反体制分子の嫌疑をかけられていた渡辺が、明治2年3月起死回生ともいえる建白書を提出します。その建白書の内容を今回の出張で改めて目にして、ハッとしました思いがしました。

越前府中微臣渡辺孝一郎として認めたその建白書には、「方今ノ急務ハ天下衆庶ノ知ル所口即チ内乱ヲ治メ外侮ヲ防キ富国強兵ノ基ヲ立ルニ他ナシ 第一条 各人各邦私利ヲ捨テテ公益ヲ取り全国合一シテ…第五条 學術ヲ開クニ先ツ各人精神ニ限界アリ尽忠立功ノ際年齢ニ節アルヲ知り敢チニ洋法ヲ拘泥セス別ニ便利ノ法ヲ設ケ學術並ヒ行ヒ長幼貧富皆其宜ヲ得テ空文虚講或学歩耶鄆ノ患ナカラコトヲ欲ス」と記されてありました。血気盛んな青年渡辺にとって、「開化」とは「學術を国内に開かんとする」ことに他ならず、そのためにはまず、「各府及ひ各県に学校を設くる」ことが絶対必要であると強調しています。さらに渡辺らしい主張ですが、「學術」とは「両局となす」べきもので、「童子横文を学ぶ

者の外十五歳以上は各局に入り其力半を学に用ひ半を術に用ゆへき事」と述べています。そして、「學術試業を経たるに非されは官務に附く事能はさる事」と、これからの明治国家を建設していく官吏とは相応の「學術」経験を有しその試業を経たるものなるべきであるとしています。明治5年の「学制」など以前に先見の明があり、確固たる信念を有していた青年期の渡辺らしい建白書だと感じます。のちに初代帝国大学総長となった渡辺洪基の施策も、青年期の考えかたを基本的に踏襲するものであったといえます。

今回は、私の研究プロローグ的な触りをご紹介いたしました。皆さんも、一緒にこの研究ニューズレターに執筆参加してみませんか？これもなにかのご縁ですから。思い立ったら吉日です。詳しくは、呼びかけ人の富岡勝さんにご連絡をいただければと思います。私も皆さんと一緒に研究ニューズレターを介して、有益な意見交換などができることをたのしみにしています。どうぞよろしくお願いします。

**『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた
教育史研究を求めて』 刊行要項 (2014年12月1日現在)**

1. (目的) 広い意味で「現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究」を各執筆者が互いに交流し、研究を進展させていくことを目的にこのニューズレターを発行します。
2. (記事のテーマ) 記事は、広い意味で現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究であれば、高等教育史だけでなく中等教育史や初等教育史なども含めた幅広いテーマを募集します。
3. (刊行頻度・期間) 研究進展のペースメーカーとするため毎月刊行し、最低限3年間は継続します。
4. (編集世話人) 発行主体は編集委員会とし、編集責任者として編集世話人を設け、当面は富岡勝と谷本宗生が担当します。編輯委員は、執筆者の中から数名程度募集します。
5. (執筆者) 執筆者は、最低限1年間参加し、原則として毎月

執筆してください。ご希望の方は、編集世話人までご連絡ください。執筆者は刊行経費として毎年600円を負担してください。

6. (記事の責任) 記事の内容については、執筆者で責任をもって執筆してください。参考文献・引用文献の出典を明らかにするなどの研究上の基本ルールはもちろん守ってください。また、ごくまれに、編集世話人の判断によって記事の掲載を見合わせる場合があります。

7. (記事の種類・分量) 記事の種類は、論考、研究上のアイデア、史資料の紹介、先行研究の検討など研究に関するものでしたら何でも結構です。記事1本分の分量は、A5サイズ2枚～4枚ぐらいを目安とします。

8. (印刷・配付) 世話人によるニューズレターの印刷は、国会図書館献本用などごく少数にとどめます。執筆者にはニューズレターのPDFファイルをメールでお送りしますので、各執筆者で必要部数をプリンターで印刷するなどして、まわりの方に献本してください。ニューズレターの内容は、編集員会のブログまたはホームページで公開する予定です。

9. (体裁) 毎月の刊行をスムーズに行うため、レイアウトなどは簡素なものにとどめ、目次も作成しません(その方が手間がかからないため)。判型はプリンターで印刷しやすいようにA5サイズにしました(PDFファイルで配付しますので、Adobe Reader で印刷する際に「小冊子」のオプションを選べば、冊子状に仕上げることができます)。
10. (交流会) ニューズレターを中心とした研究交流をしていますが、年に1回程度は執筆者の交流会を開催します。
11. 以上の内容を変更したときは、このコンセプトを改訂していきます。

以上

お知らせ

第1号刊行までのスケジュールは以下の通りです。

執筆者エントリーのご連絡	12月20日あたりまで
原稿送付の締切	2015年1月10日
第1号の刊行	2015年1月15日の予定

ぜひともよろしく願います。(富)